



平成27年10月23日

「音からの賑い度推定」総務省・地域 ICT 振興型研究開発に採択

岡山大学大学院自然科学研究科（工）の阿部匡伸教授らの研究グループが提案した「地域活性化政策立案のための音響信号による“賑い度”調査プラットフォームの研究開発」が、総務省の戦略的情報通信研究開発推進事業「地域 ICT 振興型研究開発」に採択されました。

本研究では音から街の賑い度を推定することを目指します。交通量調査などで、交差点に人が座って行き交う人の数を数えています。本研究では音の大きさと音の種別から人の混雑を自動判定し、街のどの場所が何時ごろ賑わっているかを推定します。なお、岡山県内の幾つかのスポットで実証実験を行ってフィージビリティ（実現可能性）を明らかにする予定です。

<概要>

政策立案では現状調査と分析が重要となりますが、交通量や人の混雑度の調査では地域や期間が限定的なことが多く、必ずしも十分なデータが収集できていたとはいえません。また、十分なデータを収集するためには、膨大なコストがかかります。この課題を解決するために、本研究では「音から賑い度を推定する」という独自の技術を研究します。不特定多数のユーザが街でスマートフォンを利用している間に音を収録し、スマートフォン内で賑い度を計算してクラウドに送ります。不特定多数なので、地域や期間は限定されなくなります。また、ユーザに録音の手間をかけるわけでも、スマートフォンの操作性を低下させるわけでもありません。ユーザ毎にみれば極わずかな処理であり、データ収集の費用を抑えることができます。また、クラウドに送られるのは計算結果だけですので、録音音声を他人に聞かれることもありません。

本学大学院自然科学研究科のヒューマンセントリック情報処理研究室では、これまで音声情報処理と位置情報を活用したライフログ処理を研究してきました。今回の研究の特徴は、この2つの異なる分野の研究を融合した点で、国立情報学研究所（NII）との環境音収集システムの共同研究成果を発展させるものです。研究は3年間の予定で、株式会社リオスと共同で進めます。また、研究の最終段階においては、一般ユーザの協力を得て、市町村やイベントでのフィールド実験を行う予定です。実験にご興味がある組織、実験にご協力頂ける組織も募集しています。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院自然科学研究科
ヒューマンセントリック情報処理研究室
教授 阿部 匡伸
(電話番号) 086-251-8175